

おはようございます。残念ながら放送での全校集会になりました。本来 700 人を超える長吉西中学校の生徒のみなさんの顔を見ながら、話ができるのを待ち望んでいたのですが、それもかないません。5月 25 日には 3 年生、6 月 1 日には 2・3 年生の始業式を行い、少し話をする時間がありました。先週は生徒会選挙の前にも時間をもらいました。今日はそれらの話と少しかぶるところもありますが、大切な話ですので我慢して、しかし、しっかりと聞いてください。

今回の新型コロナウイルス感染症ははっきり言って、1 月から 2 月の初めには「大したことない」病気だとおそらく日本の多くの人はそう思っていました。校長先生もその一人でした。ところが 2 月 29 日から臨時休校になって、卒業式や入学式はなんとかできましたが、まさに綱渡りの日が続きました。それでもまだまだ感じていた矢先、タレントの志村けんさんが 3 月 29 日にお亡くなりになりました。そのあたりから何が正しいかわからなくなり、すべてが初めてのことなので仕方ないことなのかもしれません、うわさがうわさを呼び、怪しげな健康法が S N S で流れました。マスクをつけることの重要性は理解され、世界でも初めのうちは「マスクなんてつける必要なし」としていたアメリカやヨーロッパでもマスクをつけることが標準になりました。

そういう中で、「新しい生活様式」という言葉が使われだし、それまでの「密閉、密集、密接」の 3 密に加えて、「会話をする際は、できる限り真正面を避ける」とか「外出時、屋内にいるときや会話をするときは、症状がなくてもマスクを着用」するという実践例が示されました。これは、私たち人間の当たり前の生活スタイルを根本的に変えるものでした。おそらく WHO（世界保健機関）の示したソーシャルディスタンス（social distancing：ソーシャルディスタンシングが本来の意味だが日本ではあまり使われないので）から来たものでしょうが、校長先生は違和感がありました。なぜなら、人ととの親しい関係を離そうという意味にとられてしまうからです。でも、違いますよね。くしゃみや会話の時のつば（唾、唾液のこと）が届かない最低でも 1 メートルを保とうということが本来の意味なのです。そこで最近は WHO もフィジカルディスタンス（physical distancing：フィジカルディスタンス）日本語訳では「身体的距離」を使うようになりました。「心の距離」を取るという意味を含んだソーシャルディスタンスではなく、適度な身体的距離を取ることは、もうしばらく続けていかなくてはなりません。とりわけあなたがた中学生年代はコロナウイルスに感染したとしても軽症あるいは無

症状であることが多いようです。しかし、あなたにも身近に大人がいますよね。おじいちゃんやおばあちゃん、お父さんやお母さんそして先生。その人たちに知らずに感染させることは十分にあり得ることなのです。学校再開から 2 週間たち暑くもなってきました。マスクをつけるのもうつとうしいですよね。今日もそうですが気温が上がり熱中症も気がかりなところです。なかなか気を張り詰めることを続けるのも難しいかと思います。でも、いまが大切なところ自分のためにそしてまわりの大切な人のために我慢しましょう。

さて、部活動が再開されます。1年生のみなさんも待ちに待った日が近づいてきました。しかしながら、部活動を行うのにも多くの制限があります。詳しくは顧問の先生からの指示に従ってほしいですが、部活動は授業に比べてマスクをはずす時間が長くなり 3 密状態が濃くなることが予想されます。水筒の飲み物のやり取りを絶対やめてくださいね。先輩や仲間とコミュニケーションをより取りたくなるでしょうが、ここも少し我慢が必要です。フィジカルディスタンスを意識してコミュニケーションをとるようしてください。

最後にもうひとつ。今朝の登校風景を見ていて気になることがありました。楽しくおしゃべりをしながら歩きたいのはよくわかります。でも、歩道を横に 3 人 4 人と歩くのは他の方の迷惑です。中学生なのですから気づかいをもって横に 2 人で列を作って登校するようにしてください。

さあ、いよいよ次のステップに入ります。学校は楽しいところのはずです。少し窮屈ですが自分のためまわりのために考えて行動していきましょう。